

かたらんね



撮影：田中 美保(当院 理学療法士)

Contents

伊王島で「新入職者リフレッシュ研修」
危機意識の高さを感じた
 「災害看護合同研修」
 実戦しながらの消防訓練
 医師のつぶやき
 子育てにも通じる「誉める」ことの大切さ

インタビューと
ふれあい看護体験
 近くで見つけた洒落たお店、美味しいお店
Q&A 麻疹(はしか)について
 謹告

❁ ご自由にお取りください ❁

健康講座のご案内

長崎北徳洲会病院では、患者さまをはじめ、地域の皆さまを対象に、定期的に院の内外で「健康講座」を開催しています。健康な毎日をお過ごしいただくために、ご関心のある方は、どうぞお気軽にご参加ください。

❁ 意外と知らないコレステロールの話

担当：健康管理センター 保健師
 とき 12月6日(金) 16:00～ 場所 4階患者食堂

❁ 脳の活性化

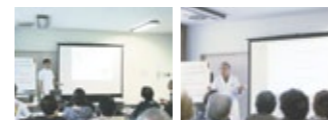
担当：三階病棟 介護福祉士
 とき 12月20日(金) 16:00～ 場所 4階患者食堂

❁ ケアマネジャーとは？

担当：介護センター ケアマネジャー
 とき 1月17日(金) 16:00～ 場所 4階患者食堂

※平成26年1月の第一金曜日は祝日のため、講座はお休みです。
 ※内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

出張健康講座に応じます！



真剣に聴講する参加者 院外の健康講座は毎回、大好評！

長崎北徳洲会病院では、院外でも医師や看護師などによる健康講座を行っています。開催を希望される法人・団体様は、お気軽にお問い合わせください。

担当：医療連携室・宮崎 Tel.095-857-3080

外来予定表

科目	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
総合	吉原	吉原	吉原	吉原	島本	
内科	中川	中川	松本	貞森	中川	当番医師
心療	立石	立石	立石	立石	立石	立石
外科		門原		門原	門原	当番医師
脳神経	中村	鬼塚		鬼塚	中村	
整形外科	堀内	堀内	堀内	堀内	堀内	
形成科	田中		矢野			
内視鏡(検査)	門原	門原	当番医師(★)	門原	中里門原(第4週)	
夕診 17時～20時	内科系 中尾立石	福田立石	島本松本(第4週)	貞森井上(第2週)	中川	
	外科系 中村	堀内	門原	鬼塚	堀内	

※医師の都合により、変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
 ※水曜日の内視鏡は、福岡徳洲会病院消化器内科からの当番医師(★)となります。
 ※土曜日は午前診のみとなっております。ただし、急患の方はいつでも受け付けいたします。

医療法人 徳洲会の理念 ◎生命を安心して預けられる病院 ◎健康と生活を守る病院

❖ 編集後記

今号のQ&Aでは麻疹(はしか)について取り上げましたので、ぜひ参考にされてください。予防ワクチンといえば、もうすぐインフルエンザが猛威をふるう季節を迎えます。こちらも早めのワクチン接種や予防対策をおすすめいたします。

編集委員一同

医療法人 徳洲会 長崎北徳洲会病院 広報誌 **かたらんね** 2013・48号 平成25年11月30日発行

企画・発行／医療法人 徳洲会 長崎北徳洲会病院

長崎市滑石1丁目12番5号 TEL.095-857-3000(代) FAX.095-856-3079

ACCESS 長崎バス 横道バス下車、徒歩1分 JR JR道ノ尾駅下車、徒歩10分

年中無休 24時間救急対応



【訂正】前号P3に掲載しました記事で、「NST稼働認定施設」とあるのは「NST稼働施設」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

「新入職者リフレッシュ研修」を伊王島で開催



9月7日(土)、新入職者のリフレッシュと他部署のスタッフや経験豊富な先輩との交流を行うことで、より一層の信頼関係を築こうと、会場のやすらぎ伊王島に向けて、参加者ががやや緊張した面持ちで出発しました。

今回の研修は、①コミュニケーション能力の向上と他部署との交流を深める②組織の一員としての自覚を持ち、自分の役割を果たす③患者様の目線で継続する治療・看護を実践する④プリセプター(新人)とプリセプティー(先輩)の信頼関係を構築する――を目的に、趣向を凝らしたカリキュラムを教育委員担当者を中心に実施しました。

何をするのか? と思いながら始まった研修は、参加者を4つのグループに分けて課題が出され、様々な意見を取り入れて、多数決でなく納得のいく結果を出すまで考え、一つの結果を出していきました。

結果を出すまでの過程が、実はとても大変で大切なことだということが理解できた研修でした。

様々な人がいろいろな考えや思いを伝え、皆で一つずつ考え、それに対して意見を出しながら進めていくことで楽しく盛り上がり、その中で多くのことを学びました。

講師は当院看護部長!



結果を出すまでのプロセスこそが大事

期待と不安を抱えながら、午前中のグループワーク会場へ。いったい



卓球混合ダブルスで参加者の親睦深める

研修後はホッと一息。美味しいバイキング料理をお腹いっぱい食べ、いざ卓球大会へ。

誰が私の相手かな? と期待しながらのくじ引きで引き寄せられた相手と混合ダブルス戦が開始されました。

それぞれが眼の色を変え、空き時間に一所懸命、練習に励むチームもあり、勝利に向けて真剣勝負で挑みました。応援にも思わず熱が入り、心地よい汗をかきながらの楽しいひと時でした。



皆さん、とても上手でした!



優勝したのはリハビリ科新入職者と先輩女性事務職のチーム。優勝記念品を嬉しそうな表情で受け取っていました。

最後は自由時間を設け、それぞれが周辺の散策や買い物をしたり、温泉や足湯を堪能して過ごし、伊王島の魅力をたっぷりと満喫した様子でした。



参加した新入職員と配属部署・職種(順不同)

坂本 祐汰
さかもと・ゆうた
リハビリテーション科
理学療法士



多久 歩
たく・あゆみ
リハビリテーション科
言語聴覚士



宮田 麻未
みやた・あさみ
総務課
医師事務作業補助



本多 晴花
ほんだ・はるか
3階病棟
看護師



戸田 菜月
とだ・なつき
リハビリテーション科
理学療法士



成枝 威郎
なりえだ・たけお
3階病棟
看護師



大坪久美子
おおつぼ・くみこ
訪問看護
准看護師



吉田 規隆
よしだ・のりたか
介護センター
介護支援専門員



永松 咲
ながまつ・さき
栄養科
管理栄養士



伊王島でリフレッシュ!



地域医療再生事業の一環

近隣3病院が参加して「災害看護研修」開催

災害時、最も大事なことは職員が同じ方向に向かうこと



一昨年の未曾有の大災害、東日本大震災。全国各地で災害に対する認識が改められたと同時に、災害への知識を習得する動きが活発化している中、9月12日、長崎北徳洲会病院で、災害看護研修を行いました。



今回の研修では、当院だけでなく、近隣の医療機関からの参加も募りました。その結果、予想以上の申込みがあったため、急遽、会場を滑石公民館の協力を得て変更しましたが、災害に対する医療従事者の意識の高さを垣間見るよかったです。

T MATの2人の職員を講師に招いて実践的研修

T MAT（徳洲会医療救援隊・災害医療救援活動を行っているNPO法



治療の優先順位を決定する「トリアージ」

最初の講義のテーマは「トリアージ」。

トリアージとは、病院を訪れる被災者に最大多数かつ最善の医療を施すため、緊急度と重症度に応じて治療の優先順位を決定していく行為のことです。病院に押し寄せてきた傷病者を、命に関わるものから順番に診ていくために必要不可欠とされます。

この命の優先順位を決定していくためには、知識が最も重要とされるため、災害時の実践的な行動とあって、参加者はまさに真剣そのもの。

演習後は「災害への備え」と題し、災害がやってくる前の準備、例えば常備薬、ラジオ、食料品、自宅の安全点検、家族会議などについての説明を聴き



人）から、被災地現場で活動経験のある荒尾修平氏と宇野謹子さんを招き、東日本大震災の現場の様子を直接聞くことができ、実践的な研修になりました。

災害時を想定した自炊訓練

最初は、水の代わりにオレンジジュースやコーラを入れたり、ビニール袋を使ったご飯作りの訓練。

ご飯の中には、それぞれ好みの具材（きざんだたくあん・バター・ミックスベジタブル・コーン・味噌・ケチャップ・醤油 梅干し・わかめ・塩コンブ・シーチキンなど）を入れて、個性豊かなご飯を炊いていました。水を張った大きな鍋に入れて加熱。



美味しいご飯に仕上がっているといいな…

ました。方が一の心構えの大切さについての話もあり、看護師として、どのような災害救援活動ができるかを考えました。

さあ、昼食の時間 自炊訓練のお味は？

自炊訓練時に作ったご飯と豚汁を参加者全員で味わいました。シートを敷いた駐車場で陣を組み、災害時の食事を想定しながらの昼食タイムでした。



お味は？
という、
コーラも入れた具材が
より炊き込み
ご飯に近
い味になっ
ていたり、即席のケチャップご飯もそ

こそ美味しくいただきました。でも、オレンジジュースはご飯には合わなかったようです。

ビニール袋でご飯が炊けること、参加者は驚いていました。災害時は、そこにあるものを利用して工夫していかなければならないことを実感しました。

昼食後、病院自体の防災についての講義があり、防災マニュアルをはじめ、災害時の患者さまの安全、院内でどう行動するかを考える内容でしたが、最も重要なことは「職員が同じ方向を向いている」という意識統一にありました。

その後のグループワークを通して、今回参加した近隣病院の看護師たちも、それぞれに何かを感じ取った様子で、今後、勤務先の病院で、防災・災害対策の中心となって活躍することが期待されます。

家族会議を開いて 日頃の備えを万全に

不測の災害に備えて、読者のみなさんも早速、「家族会議」から始めてみてはいかがでしょうか？

家族会議で話し合う内容の一例は、次の通りです。

- 役割分担
- 非常時の連絡方法の確認
- 避難が必要となった場合の避難先の確認
- 避難生活に必要なものの確認

例えば、水、食料、毛布、携帯ラジオ、医薬品、衣類、軍手、懐中電灯、貴重品など



北消防署立ち会いのもと消防訓練

～職員の防火意識の向上を図る～

患者さまの安全な避難誘導を目的に

長崎北徳洲会病院では、万が一、火災が起こった際に慌てず安全に患者さまの避難誘導が出来るよう、定期的に消防訓練を実施していますが、長崎市北消防署立ち会いのもと、消防訓練を実施しました。

訓練には当日勤務の職員が参加し、夜間に院内で火災が発生したという想定のもと、各職員が役割分担通りに、病院内での非常放送及び消防局への模擬119番通報訓練、防災設備の動作確認とともに避難誘導、初期消火訓練に取り組みました。



寝たきりの患者さまの役を職員が演じ、担架、シートなどを使って病棟から1階の避難場所まで移送する、実戦さながらの緊張した訓練も行いました。



疑似煙を使って視界ゼロの状態を体験

また、今回は消防署の指導を受けながら、屋内消火栓を使っての放水訓練や、ドライスモークという疑似の煙を使用しての煙体験を実施。

煙体験では、1人ずつ部屋に入室して視界がない状態の怖さ、煙がない状況の避難との違いを身をもって体験しました。

今後も災害時に備えて防火設備の点検、火災を出さない環境づくり、職員の防火意識向上を図っていきます。



いわゆる「中間管理職」といわれる世代になった。「指導医講習会」などの研修を受ける中で、いつも反省させられる。必ず言われるのが「誉めなさい」ということであるが、自分がいかに「誉める」ことを怠り、「怒る」ことばかりしていたかを。

人間の記憶はどうして、痛みや不快な思いをこんなに持続させ、ましてや増大させるのだろうか。

先日、『五体不満足』という著書で有名な乙武洋匡さんの『自分を愛する力』という本を読んだ。

読んだあと、気づかされたのが、彼の中では、『成功した喜び』失敗した落胆』である。私はどうかというと、『成功』失敗』である。なので、若い人を指導する際に、失敗もしくは失敗するであろう要素にばかり目が行っていた。物事には必ず、両面性が存在し、おそらく「パーフェクトに出来ていない」ということはないであろう。できていないときには、何割かは『できていない』が必ず、存在しているのだ。

○

しかし、一握りだが、最近遭遇するのは、できないではなくて、やらないという選択肢を選ぶ人がいるということだ。

やらないことに関してだけは、先述した「パーフェクトに出来ていない」に近い状況だと思う。そんな人は、乙武氏の著書のあとがきでも述べられているが、「人生で失敗し

子育てにも通じる「誉める」ことの大切さ

医師のつぶやき



ない方法が一つだけある。それは何のチャレンジもしないことだ」を実践している人々なのかもしれない。

ここで、残念なのは、その方々は、往々にして、チャレンジして前に進もうとする人の足を引っ張ろうとする。自分が何もしなかったことがバレルからかもしれない。失敗することに殊のほか不安を感じているのが一因であろう。

乙武氏は著書の中で、失敗⇨経験と捉えることをすすめている。しかし、失敗⇨経験を積ませるまで待つことが、人の命を預かる医療の現場では難しい。また、相手が成人であるがゆえに、さらにことを難しくさせている。今後の私の課題でもある。

○

さて、柔軟な若い人や子育てに関しては、失敗を非難しない、チャレンジしたことを手放しに誉める、それから、大人がいっしょに成功へのプロセスを考える。これが理想なのだと思う。

情報伝達の機器の発達などにより、私たちは、与えられすぎて、答えを知りすぎたのかもしれない。それが正解か、考えもせず。



乙武洋匡著
『自分を愛する力』
(講談社現代新書)

インターンシップとふれあい看護体験

高校生が病院の仕事を体験



患者さまの表情が 思わずほころぶ

将来は人の命に携わる医療従事者になりたい。——そんな夢を抱く高校生が臨むインターンシップや看護体験。当院では、これらの取り組みを積極的に受け入れており、夏休みを利用して、今年もインターンシップに5名、ふれあい看護体験に4名が、病院での仕事を間近に体験しました。

初めは緊張の余り硬くなっていた高校生。そんな高校生の突然の訪問に驚く患者さまもいましたが、初々しい看護師姿の高校生を見ると、思わず表情がほころび、

び、笑顔で会話を楽しんでいました。職場体験ということで、一部院内業務も可能な範囲で体験。

病院には医師、看護師をはじめ、たくさんの職種、資格を持つスタッフが働いています。今回の体験者には、理学療法士や介護福祉士を志す生徒もいました。いろんな職種それぞれに魅力があることでしよう。自分自身の目で現実をしっかりと見据えて、医療に携わる素敵な社会人をめざしてほしいものです。

学生同士、血圧測定や車いす乗車と介助を行い、患者さまの身体を拭く清拭の見学、レクリエーション参加などを実際に体験することができたようです。

当病院での体験が、将来の糧になれば良いなと思っています。



高校生の感想文から

◎看護師がキレイな仕事ではないという意味がよく分かりました。でも、現場を知った私は看護師になりたいという思いが強くなりました。将来、心のキレイな看護師さんになってみたいです。



水飴もまた水分を含みしっかりとしたカステラを仕上げることでできる麦芽水飴を使用しています。

商品の中では「和三盆カステラ」が特におすすめ。最高級の和三盆糖を使用したカステラは、味わいや甘味がまた格別です。特別なカステラ「五三焼カステラ」もあります。

地元長崎の人に糖庵のカステラを知っていただき、糖庵が長崎のお土産の定番となるよう頑張っている糖庵。最近では、歌手のさだまさしさんとコラボした「かすていら」を販売したり、テレビやCMでも糖庵の商品を見かけた人も多いのではないのでしょうか。

糖庵のカステラは、畷刈町の店舗、キヨスク、空港、サービステリア、ハウステンボス、そして崇福寺前にある「かすてら珈琲 自由飛行館」で買います。



◎看護師の皆さんはチームとしての連携がすごくできていると思いました。この看護体験を通していろんなものが見えてきました。インターネットや人から聞いた話だけでは、絶対に看護師のこととはわかりません。

めることができます。

職人手焼きの、シンプルでありながらも昔ながらの伝統や製法を語り継ぐ糖庵のカステラ。ぜひ一度ご賞味になってはいかがでしょうか。

近くで見つけた 洒落たお店、 美味しいお店

第3回 長崎カステラ糖庵 長崎本舗

長崎市畷刈町に本店を構える「長崎カステラ糖庵」。

糖庵で作られるカステラは、そのすべてが手作り。生地から焼き上がりまで一人の職人が責任をもって仕上げられています。もちろん、原材料にもこだわりがあり、卵は糖庵が契約している専用の鶏から採れるものだけを利用して作ります。また、材料の一つ、



長崎カステラ糖庵 ～長崎本舗～
〒851-2212
長崎県長崎市畷刈町1613-39
TEL.095-840-1331 FAX.095-840-1333
ご注文専用フリーダイヤル ☎0120-87-2336

謹告

患者様、利用者様におかれましては、日頃より徳洲会グループの医療・介護・福祉サービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。

平成25年11月12日に公職選挙法違反容疑で当グループから逮捕者を出したことにより、ご迷惑とご心配をおかけし心より深くお詫び申し上げます。

徳洲会グループといたしましては、当局の捜査の行方を見守りつつ、適切な対応を図るとともに、今後、このような事態が発生しないように組織のコンプライアンスの強化を図っていきたくと考えております。

従来から提供してまいりました医療・介護・福祉サービスにつきましては、引き続き職員が一丸となって、さらに満足いただけるように努めてまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

また、徳洲会グループの職員の方々には、地域の医療・介護・福祉のために日夜、努力していただいておりますことを厚く感謝申し上げます。

平成24年の衆議院議員選挙では、多くの方々に徳田毅代議士を応援していただきましたが、今回のような事態を招き心より深くお詫び申し上げます。

しかし、「生命だけは平等だ」という徳洲会の理念の下、現場で実践してきた医療・介護・福祉サービスは決して間違っていないと信じております。

今回の事件で、職員の方々も多くの不安や不満をお持ちだとは思いますが、当グループのサービスをご利用いただいている患者様、利用者様の利益を守ることを最優先に考えて、職務に邁進し、一致団結してこの難局を乗り切っていただきたく、お願ひ申し上げます。

現在、執行部は組織が抱える問題の洗い出しと同時に改善に着手しました。まず職員の方々により充実して働ける職場づくりを進めてまいります。

患者様、利用者様には今まで以上に安心・安全で質の高い医療・介護・福祉サービスの提供に努力してまいりますので、ご理解のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

平成25年11月13日

一般社団法人徳洲会

理事長 鈴木 隆夫

疑問を解決!



麻疹(はしか)について

※厚生労働省「麻しん(はしか)に関するQ&A」を参照しました。



Q.1 流行の兆しがあった「麻疹(はしか)」とは、どんな病気ですか？

A.1 突然の高熱で発症し、咳や鼻水といった風邪に似た症状があります。場合によっては、その後容態が悪化し、肺炎や中耳炎を合併したり、脳炎に至るケースも稀にあります。

Q.2 麻疹は怖い病気ですね。では、どのような対策をしたら良いのでしょうか？

A.2 予防に勝る治療はありません。ワクチンの接種を特におすすめします。麻疹の患者さまと接触してしまった場合、接触後72時間以内にワクチンを接種すれば、症状を予防、あるいは軽くすることが期待できますが、ご心配であれば、すぐに医療機関を受診しましょう。

Q.3 過去にワクチンを接種したかどうか分からない時は、どうしたらよいですか？

A.3 風疹にかかったかどうか不明だったり、ワクチンを接種したかどうか不明の方も多いと思いますが、その場合は、接種して問題ありません。特に女性の場合、妊娠中に麻疹にかかるると胎児に影響が及びますので、積極的に接種した方が良いでしょう。接種は2回必要で、ワクチンが不足した状況もありましたので、早めに医療機関をお訪ねください。

